



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

家庭数配布

みんなにとって良いことを みんなが元気になることを

令和6年(2024)1月19日号

校長 狩野 洋光

1.17を忘れない ~ 阪神淡路大震災から29年

平成7年(1995年)1月17日 AM5:46 淡路島を震源とした大きな地震が発生し、6000人以上の尊い命が失われました。宝塚市も大きな被害を受け、地域の学校や公民館が避難所となりました。当時、断水と停電が続いたこと、道路の渋滞がひどく、移動するのにふだんの3倍以上の時間がかかったことを覚えています。

保護者の方のなかには、震災を経験された方もいらっしゃることでしょう。震災の記憶が風化していく中、震災の経験を語り継ぐことは、次の世代への大きなメッセージになると思います。お子さんに語り継ぎ、防災について考えるきっかけとなりますように。



1995.3.23 卒業式

地震避難訓練をおこないました

1月17日(水)は、地震避難訓練をおこないました。緊急放送の後、全校生が運動場に避難しました。避難にかかった時間は、4分18秒でした。廊下が通れなかったら? 玄関がくずれていたら? 災害の時には、一人一人がよく考えて行動することが大切です。最後に、被災され犠牲となった多くの命を思い、黙とうしました。

思春期のゆらぎと大人のサポート

先日、宝塚第一中学校区の「元気の交流学習会」に参加しました。一中のスクールカウンセラーの「ご自身の反抗期を覚えていますか」という問いかけからお話が始まりました。思春期特有の現象について、事例をあげて教えていただきました。

○中学生になって口数が少なくなった。尋ねても「べつに」と言って…。

- ・しゃべらなくなったのは、自分で消化できることが増えたからともいえます
- ・秘密をもつことが人を成長させる ~ 秘密をもつ力は成長の証
- ・親を邪険にする言動 ~ 実は本人に自責の念があり、ひそかに傷ついている

○最近、イライラ。素直でいい子だったのに…。

- ・いい子って、だれにとっての「いい子」？ 大人から見て、いやしい子では？
- ・常にいい子でいることに疑問を感じ始める時期…本当の自分を周りの期待に
応えて自分をつくってきた。まわりの要求にあわせようとがんばってきた。
- ・母親(父親)が、避雷針にならないといけない時期…イライラはここに落としてね

○「もう何もやる気がしない」「やめようかな」…子どもが「やりたい」ということは
不自由なくさせてきたのに、少し失敗しただけなのに…。

- ・なんでも与えられると自分で選ぶ力が身につかない
- ・反対されることで、説明する力、交渉する力が身につく
- ・かなえること応援することも大事だが、反対・制限することも大事
- ・日常の会話が子どもを育てている

では、子どもが思春期に入る手前の段階で、周囲の大人はどうすればよいか

- ◎子どもの味方がいることを子どもにわからせる…不安定な心を受け止める
- ◎子どものコミュニケーション能力を育てる…思春期は大きな渦に飲み込まれた状態。溺れそうなときに丁寧な言葉は出ない。暴言暴力となって出るかもしれない。でも、言葉にしないと相手に伝わらない。伝わると誰かが助けてくれる。そんな体験ができるように支援していく。
- ◎発達の途中ではアンバランスなところが目立つものだと知る…行ったり来たり
- ◎生活やしつけの面での枠組みをつくり、しっかりと守らせる
 - …親につくられた枠組みも大事。ある程度の枠組みがあるから、この枠を越えたいと、親に訴える力がつく。
- ◎ある程度、子どものペースに合わせられるような精神的ゆとりをもつ